

# 森においでよ物語



指導員：岡林 道生 さん

若草幼稚園園長の岡林です。

体験活動で自然に触れることで、慈しみの心を育ててほしいと思います。

参加者公募開始から実施まで短期間だったので、参加者が集まるかどうか心配でしたが、高知新聞の広報誌『K+』の中で公募することになりました。

小さな記事で、またまた心配でしたが、なんと、若い保護者から大反響。「うちの子2才なんです参加できますか?」。広報誌(マスコミ?)の力ってすごいですね!

総勢54名の親子が、参加してくれました。



若草幼稚園「すくすくの森」に集合。  
活動のルールを確認して、いざ、森へ!



あ!  
空が見えるよ!

高い木  
ばっかりだね~



おっ  
この木の葉、  
もっらいい!



〜おはよう! 森の中を歩くと、  
いろいろな音が聞こえるよ〜



〜のびのびと  
遊んでね〜



わーい、  
ふかふかだ〜!



木の葉や、落ち葉、小枝などを使って、作品づくり。



おひらき  
おはよう〜

プログラムを終えて  
最初は山の環境に戸惑いを  
感じていた子どもたちも、昼食後  
には、自分たちで遊びを見つけ  
て遊んでほしい」という当初の  
ねらいは達成されたのではない  
かと思います。また来たいとい  
う声がたくさんありました。

# プログラム名 森においでよ

**目的・ねらい** ・四季折々の変化に触れて、自然の営みを感じながら、自然と共にあることに気づく  
 ・身近な動植物に親しみ、自然界の多様性や生命のつながりを知る

**実施時期・時間**： 冬 / 4時間30分

**実施場所**： 若草幼稚園 すくすくの森

**対象年齢**： 3～6歳

**対象人数**： 54名

**指導者・支援者**： 指導者6名、援助者4名、看護師1名

**準備物**： 参加者＝長袖・長ズボン、帽子、運動靴、虫予防の対策、お茶、タオル

主催者＝安全対策用具、軍手、スケッチブック、クレヨン(色鉛筆)、アルミ箔、門松づくりの材料、絵はがき作りの材料

## プログラム構成

### ① 導入

あいさつ・自己紹介／注意事項の説明



### ② 展開

1. 芋を包む
2. 冬の景色を楽しむ
3. 森の中で遊ぶ
4. 岩山を登って頂上に上る
5. 芋を焼く
6. 門松・絵葉書をつくる
7. 焼き芋を食べる

### ③ まとめ

参加者全員で共有の時間を過ごす

## 活動内容 (どのような手順で、どこで、何をするか)

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
導入	<b>あいさつ・自己紹介／注意事項の説明</b>			
	・親と一緒に注意事項を聞く ・親と一緒に自己紹介	・子どもと一緒に注意事項を聞く ・子どもと一緒に自己紹介	・自然は楽しいが油断すると生命に関わることを説明する ・約束事の徹底をする	・森は広大なので、活動できるエリアや危険箇所をつかんでおく必要がある ・説明したことが理解できたか確認する
				
展開	<b>1：芋を包む</b>			
	・教えられて自分でやってみる	・自分の芋を包みながら子どもにも教える	・すきまをつくらないように説明する	・きちんと包めているか後で見て確認する
展開	<b>2：冬の景色を楽しむ</b>			
	・周りの景色を見て冬ならではの季節を感じる	・歩きながら木々や道で冬ならではの景色に気づき言葉にしてい	・冬ならではの森の装いに気づけるように配慮する ・ゆっくり歩く	・そこにある自然を体感させる 

## 展開

	子どもの動き	親(大人)の動き	指導者の動き	留意点
展開	<b>3：森の中で遊ぶ</b>			
	・大きな木々に囲まれて、好きな遊びを見つける ・見つけたものをメモしたり、スケッチしたりする ・昆虫と遊ぶ ・木の実、葉っぱ等を集めて遊ぶ ・食べられる木の実を食べる	・子どもがどんなことに興味を持ったか見極め楽しめるように配慮する ・スケッチブックやクレヨンを持ち、子どもが必要な時に渡す ・子どもと一緒に葉っぱを集めたり、木の実を探す	・静かな時間を設ける ・森の中ならではの遊びをやってみせる ・五感を研ぎ澄ます活動をする ・生命のつながりの絵本等を利用して自然の営みを伝える ・採取の仕方を教える ・木の実の食べ方を教える ・虫にも実にも自分の住かがあることを教え、むやみに持って帰らないことを子どもに教える	・興味や関心を広げられるようにする ・休憩所などに図鑑を用意しておく ・わからないものを口に入れたりしないように注意する
				
展開	<b>4：岩山を登って頂上に上る</b>			
	・指導者や親に助けられながら、岩山を登る ・頂上で声を出してみる	・見守る姿勢を大切にします	・必要以上の援助はしないが、いつでも手助けができるようにする ・緊張感を持って接する	
	<b>5：芋を焼く</b>			
展開	<b>6：門松・絵葉書をつくる</b>			
	・山の枯れ枝を集める ・火に近づき過ぎないようにしながら、様子を見る	・子どもと一緒に山の枯れ枝を集める	・火の周りを囲む ・子どもが火に近づかないように注意する	・子どもの動きから目を離さない 
	・好きな方からやってみる ・自分の思ったとおりにやってみる	・子どもの発想を大切に ・必要な時だけ手助けをする	・門松づくりの指導 ・絵葉書づくりの指導 ・楽しんでできるように声をかけたり、援助したりする	・積極的、主体的にできるような声をかける ・作品に共感する
展開	<b>7：焼き芋を食べる</b>			
	・熱いので気をつけて食べる	・熱いので気をつける	・子どもが火に近づかないように注意する ・子どもの動きから目を離さない	
まとめ	<b>参加者全員で共有の時間を過ごす</b>			
	・今日の感想や気づいたことをみんなで話す ・余分な物は森へ返す	・子どもの気持ちを引き出し言葉にできるようにする	・一人ひとりに話を聞く	・一人ひとりの言葉や表現に共感しながら、感じたことを言葉にしやすいような配慮をする

こんな遊びも  
できます

葉っぱのフィールドビンゴ／葉っぱじゃんけん『はっぱっぱ』  
おかあさんいっしょに『葉っぱ相撲』しよう